

## エピペン注射液 0.15mg エピペン注射液 0.3mg

### 【この薬は？】

販売名	エピペン注射液 0.15mg EPIPEN Injection 0.15mg	エピペン注射液 0.3mg EPIPEN Injection 0.3mg
一般名	アドレナリン Adrenaline	
含有量 (1管 2mL 中)	1mg	2mg

### 患者向医薬品ガイドについて

**患者向医薬品ガイド**は、患者の皆様や家族の方などに、医療用医薬品の正しい理解と、重大な副作用の早期発見などに役立てていただくために作成したものです。

したがって、この医薬品を使用するときに特に知っていただきたいことを、医療関係者向けに作成されている添付文書を基に、わかりやすく記載しています。

医薬品の使用による重大な副作用と考えられる場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

ご不明な点などありましたら、末尾に記載の「お問い合わせ先」にお尋ねください。

さらに詳しい情報として、PMDA ホームページ「医薬品に関する情報」  
<http://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html> に添付文書情報が掲載されています。

### 【この薬の効果は？】

- ・この薬は、アナフィラキシー補助治療剤と呼ばれる注射薬です。
- ・この薬は、交感神経を刺激する作用により、心臓の機能を増強し、血圧を上昇させ、また、気管支を拡張し呼吸量を増加し、ショック症状を改善します。
- ・次の目的で処方されます。

**蜂毒、食物及び薬物等に起因するアナフィラキシー反応に対する補助治療（アナフィラキシーの既往のある人またはアナフィラキシーを発現する危険性の高い人に限る）**

- ・アナフィラキシー反応は、病状が進行性であり、初期症状（しびれ感、違和感、口唇の浮腫、気分不快、吐き気、嘔吐、腹痛、じん麻疹、咳込みなど）が人により異なることがあります。過去のアナフィラキシー経験の有無、経験のある人はその時の初期症状等を必ず医師に伝え、この薬の注射時期について患者さ

んや保護者、またはそれに代わる適切な人は十分理解できるまで説明をうけてください。

- ・医師から説明された徴候や症状を感じたときは、この薬を速やかに使用してください。
- ・この薬は、医療機関において適切な在宅自己注射教育を受けた患者、保護者またはそれに代わる適切な人が使用できます。

## 【この薬を使う前に、確認すべきことは？】

- 患者さんや保護者またはそれに代わる適切な人は、この薬を受け取る前に、適切に注射できるよう、保存方法、使用方法、使った時にあらわれる可能性のある副作用について十分理解できるまで説明をうけてください。
- この薬を受け取る際には、患者向けの説明文書等をよく読み、練習用エピペントレーナーを用いて、この薬の使用方法に慣れておいてください。
- この薬は、アナフィラキシーが発現したときの緊急の補助治療として使用するものです。医療機関での治療に代わるものではありませんので、この薬を注射した後は必ず医療機関を受診し、医師の治療を受けてください。
- この薬を大量に使用したり、誤って静脈内に注射したりしてしまった場合には、急激な血圧の上昇によって脳出血をおこすことがあります。静脈内に注射してしまわないよう、太ももの前外側以外には注射しないでください。
- 次の人は、この薬を使用することはできません。
  - ・抗精神病薬のブチロフェノン系薬剤（セレネース、トロペロンなど）、フェノチアジン系薬剤（ウインタミンなど）、イミノジベンジル系薬剤（デフェクトンなど）、ゾテピン（ロドピン）、リスパダール（リスパダール）や $\alpha$ 遮断薬、イソプロテレノール等のカテコールアミン製剤、アドレナリン作動薬（プロタノールなど）を使っている人
- 次の人は、原則として、この薬を使用することはできません。
  - ・過去にエピペン注射液に含まれる成分で過敏な反応を経験したことがある人
  - ・交感神経作動薬に対して過敏な反応を経験したことがある人
  - ・動脈硬化症の人
  - ・甲状腺機能亢進症の人
  - ・糖尿病の人
  - ・心室性頻拍等の重い不整脈のある人
  - ・精神神経症の人
  - ・コカイン中毒の人
  - ・投与量が体重1kgあたり0.01mgを超える人（0.15mg製剤については15kg未満、0.3mg製剤については30kg未満の人）
- 次の人は、慎重に使う必要があります。使い始める前に医師または薬剤師に告げてください。
  - ・ハロタンなどハロゲン含有吸入麻酔薬を使用している人
  - ・高血圧の人
  - ・肺気腫のある人
  - ・高齢の人
  - ・心臓に障害のある人
- この薬には併用してはいけない薬[抗精神病薬のブチロフェノン系薬剤（セレネ

ース、トロペロンなど)、フェノチアジン系薬剤 (ウインタミンなど)、イミノジベンジル系薬剤 (デフェクトンなど)、ゾテピン (ロドピン)、リスペリドン (リスパダール) や $\alpha$ 遮断薬、イソプロテレノール等のカテコールアミン製剤、アドレナリン作動薬 (プロタノールなど) ]や併用を注意すべき薬があります。他の薬を使用している場合や、新たに使用する場合は、必ず医師または薬剤師に相談してください。

## 【この薬の使い方は？】

この薬は注射薬です。

### ●使用量および回数

使用量は、あなたの体重を考慮して、医師が決めます。

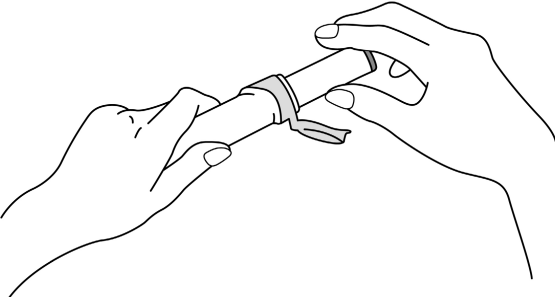
通常、成人には0.3mg 製剤を使用し、小児には体重に応じて0.15mg 製剤または0.3mg 製剤を使用します。

販売名	エピペン注射液 0.15mg	エピペン注射液 0.3mg
一回量	0.15mg (0.3mL)	0.3mg (0.3mL)
使用回数	1回投与	1回投与

体重 15kg 未満の人に 0.15mg 製剤、体重 30kg 未満の人に 0.3mg 製剤を使用すると過量となるおそれがあります。

### ●どのように使用するか？

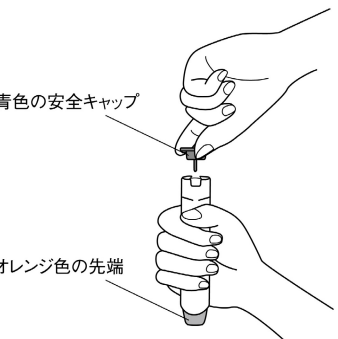
使用方法



(1) 携帯用ケースのふたを開けて注射器を取り出す。

※この薬は光で分解しやすいため、使用前に携帯用ケースから取り出してください。

---



青色の安全キャップ

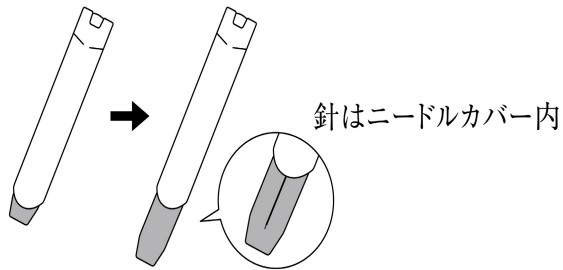
オレンジ色の先端

(2) オレンジ色のニードルカバー先端を下に向けて握り (注射器の上下どちらの端にも親指をかけないで)、青色の安全キャップを外す。

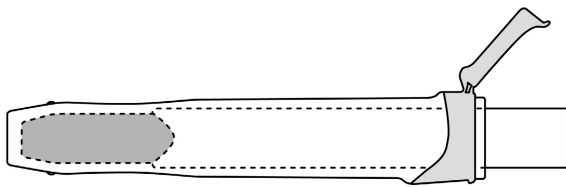


(3) 太ももの前外側に垂直になるようにし、オレンジ色のニードルカバーの先端を「カチッ」と音がするまで強く押し付ける。太ももに押し付けたまま数秒間待ち、エピペン を太ももから抜きとる。(緊急時には衣服の上からでも注射可能)

※お尻や静脈に使用しないこと。  
 ※投与部位が動かないようにしっかり押さえること。



(4) 適正に作動した場合には、オレンジ色のニードルカバーが伸びる。(針はニードルカバー内にある)

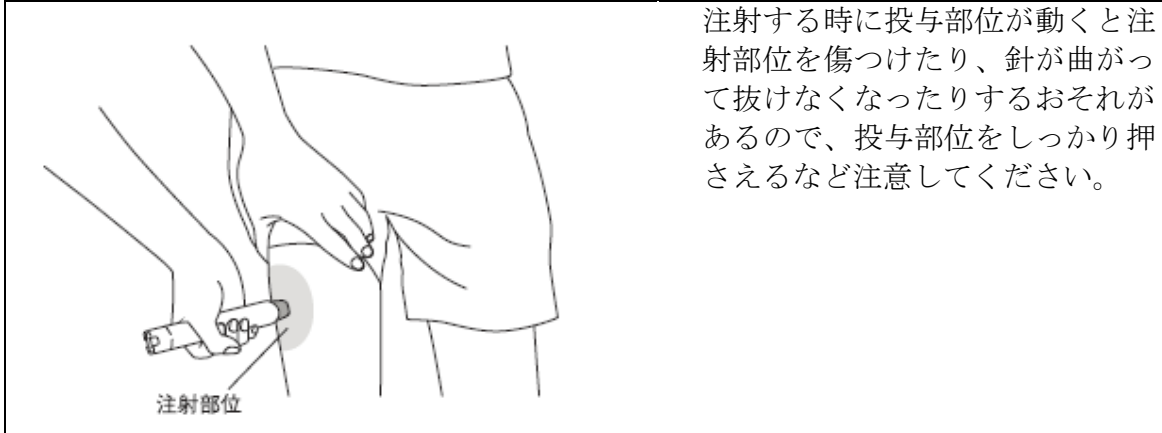


(5) 使用済みの注射器はオレンジ色のニードルカバー側から携帯用ケースに戻す。(オレンジ色のニードルカバーが伸びているため、ふたは閉まらない。)

(6) この薬を使用後、直ちに最寄りの医療機関を受診する。

(7) エピペン注射液を使用した旨を医師に報告し、使用済みの本注射器を提出する。

## 患者本人以外が投与する場合



- ・この薬の使用量は約 0.3mL であり、注射後も約 1.7mL の薬液が注射内に残るように設計されています。
- ・使用時まで青色の安全キャップは取り外さないでください。
- ・一度注射すると、再度注射しても薬液がでない構造のため、同一の製品を用いて二度注射しないでください。
- ・青色の安全キャップをはずして、投与部位が動かないようにしっかり押さえ、太ももの前外側にオレンジ色のニードルカバー先端を強く押し付けることにより、筋肉内に注射します。注射器を数秒間押し付けた状態を維持し、その後注射部位をもんでください。
- ・この薬を指または手等に誤って注射した場合は、ただちに受診してください。
- ・有効期限内であっても、変色していたり、沈殿物が認められたりするものは使用しないでください。

### ●多く使用した時（過量使用時）の対応

心室細動、脳出血、腎機能停止や重篤な代謝性アシドーシスがあらわれることがあります。ただちに受診してください。

## 【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】

- ・この薬は、アナフィラキシーショックの救急治療に用いる緊急時の補助治療剤で、ショック時の循環動態（血圧低下など）を改善しますが、その症状はショックを起こした原因や病状によって異なることがあります。この薬を使うか使わないか、使う時期に十分注意してください。
- ・この薬は心臓における酸素の需要を増加させますので、アナフィラキシー以外によるショックには使用しないでください。
- ・この薬には血圧を上昇させる作用のほか、血管を収縮したり、気管支を広げたりする作用もありますので、ショックの救急治療の後には他の昇圧剤が用いられます。
- ・過度の血圧上昇を起こすことがあり、急性の肺水腫、不整脈、心停止などを起こすおそれがありますので、過量にならないように注意してください。
- ・この薬は、緊急時の補助治療剤であり、医療機関での治療に代わりえるものではありませんので、この薬を注射した後は、ただちに医師の治療を受けてくだ

- さい。
- ・この薬によりあらわれる可能性のある副作用、誤って注射をしてしまった時の危険性について十分理解できるまで説明を受けてください。
  - ・この薬の使用期限に注意してください。
  - ・妊婦または妊娠している可能性がある人は医師に相談してください。
  - ・他の医師を受診する場合や、薬局などで他の薬を購入する場合は、必ずこの薬を処方され、使用する可能性のあることを医師または薬剤師に伝えてください。

## 副作用は？

特にご注意いただきたい重大な副作用と、それぞれの主な自覚症状を記載しました。副作用であれば、それぞれの重大な副作用ごとに記載した主な自覚症状のうち、いくつかの症状が同じような時期にあらわれることが一般的です。このような場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

重大な副作用	主な自覚症状
肺水腫 はいすいしゅ	吐き気、嘔吐（おうと）、横になるより座っている時に呼吸が楽になる、息苦しい、息切れ
呼吸困難 こきゅうこんなん	息苦しい、息切れ
心停止 しんていし	意識がなくなる、呼吸停止

以上の自覚症状を、副作用のあらわれる部位別に並び替えると次のとおりです。これらの症状に気づいたら、重大な副作用ごとの表をご覧ください。

部位	自覚症状
頭部	意識がなくなる
口や喉	吐き気、嘔吐（おうと）
胸部	横になるより座っている時に呼吸が楽になる、息苦しい、息切れ、吐き気、呼吸停止
腹部	吐き気

## 【この薬の形は？】

販売名	エピペン注射液 0.15 mg	エピペン注射液 0.3mg
性状	無色澄明の液	
形状		

## 【この薬に含まれているのは？】

販売名	エピペン注射液 0.15 mg	エピペン注射液 0.3 mg
有効成分	アドレナリン	アドレナリン
添加物	ピロ亜硫酸ナトリウム	ピロ亜硫酸ナトリウム

## 【その他】

### ●この薬の保管方法は？

- ・光と湿気を避けて携帯用ケースのまま室温（15～30℃）で保存し、冷所または日光のあたる高温下等に放置しないでください。
- ・この薬の使用前には、溶液が変色していないこと、および沈殿物がないことを確認し、それらの変化が認められた場合には使用しないで新しい製品の処方を受けてください。
- ・この薬と携帯用ケースを落とさないように注意してください。落としてしまった場合は、破損やもれがないか確認してください。
- ・子供の手の届かないところに保管してください。

### ●薬が残ってしまったら？

- ・この薬には使用期限があります。製品の外箱および製品本体のラベルに表示されている使用期限を確認してください。
- ・使用期限が切れる前に、未使用の製品を持って医療機関等を受診し、新しい製品の処方を受けてください。
- ・使用期限が切れたり、使用する必要がなくなったりした場合は、処方した医療機関等へこの薬を提出してください。
- ・ご使用時における使用期限切れを防ぐ目的で「使用期限切れ等お知らせプログラム」を設けています。この薬を処方された時に渡された登録ハガキに必要事項を記載して申し込むか、エピペン Web サイト（[www.epipen.jp](http://www.epipen.jp)）から申し込んでください。
- ・絶対に他の人に渡してはいけません。

### ●廃棄方法は？

- ・この薬を使用した場合は、治療を受けた医師にこの薬を使用したことを報告し、使用済みのこの薬を提出してください。

## 【この薬についてのお問い合わせ先は？】

- ・症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。
- ・一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。

製造販売会社：ファイザー株式会社

(<http://www.pfizer.co.jp/pfizer/>)

### 【エピペンの操作について】

エピペン カスタマーサポートセンター

患者さん・一般の方：0120-303-347

FAX：0120-303-258

受付時間：24時間 365日

### 【その他についてのお問い合わせ】製品情報センター

患者さん・一般の方：0120-965-485

FAX：03-3379-3053

受付時間：月～金 9時～17時30分

（祝日、当社休日を除く）